

## トイレのオールジェンダー利用に関する研究その6 配置計画の違いによる男女共用トイレの利用しやすさの検討

会員種別 ○日野 晶子 1\*  
会員種別 高橋 未樹子 2\*\*

男女共用トイレ オールジェンダートイレ トランスジェンダー  
性的マイノリティ オフィス 公施設

### 1. はじめに

本研究は、性自認に関わらず、誰もが安心して快適に利用できるトイレの環境整備をめざしている。前報に続き本報では、トイレ空間全体の配置計画による「男女共用個室トイレ」の利用意向の違いを調査し、性自認によらず利用しやすい配置計画のポイントについて考察する。

### 2. 調査方法

その5同様、諸条件で抽出したシスジェンダー（以下、シス）計 1,000 人（20～59 歳、性年代均等割）、トランスジェンダー（以下、トランス）計 325 人（20～59 歳、FTM：50 人、FTX：105 人、MTX：83 人、MTF：87 人）に対し、インターネット調査を行った。

手洗い器付の「男女共用個室トイレ」を含むトイレの配置図 I～V を作成し、各特徴を示す簡潔な説明文を添えた（図 1）。回答者にそれらを確認してもらい、各配置内の「男女共用個室トイレ」の利用意向を尋ねた。選択肢は前報同様、1.問題なく利用すると思う、2.条件や状況によっては利用すると思う、3.できれば利用したくない、4.絶対利用したくない、5.わからない、の 5 択である。次に、回答者自身が各配置内の「男女共用個室トイレ」を利用すると仮定し、最も良いまたは悪いと思った配置とそれらを選択した理由を自由記述にて尋ねた。

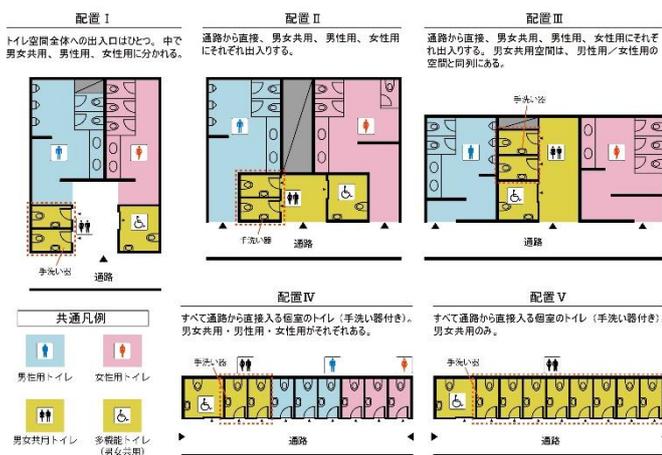


図 1. 「男女共用個室トイレ」を含む配置図 I～V

### 3. 調査結果

#### 3-1. 配置別「男女共用個室トイレ」の利用意向

各配置内の男女共用個室トイレの利用意向を尋ねた。

オフィスの結果を表 1 に、公共施設の結果を表 2 に示す。シス男女、トランスいずれもオフィスと公共施設はほぼ同じ回答傾向にあり、すべての配置にて「条件や状況によっては利用すると思う」が最多で 3～4 割を占めた。

「問題なく／条件や状況によっては～」の合計は、両施設共にシス男性では I～III が 75% 程度、IV、V が約 7 割で、3 者の内最も利用意向が高い傾向にあった。シス女性は、両施設共 I～III が 6 割前後、IV、V は 5 割未満であり、どの配置でも利用意向は最も低い。トランスは、両施設共 II、III が 7 割前後、オフィスの I、IV、V と公共施設の IV、V が 65% 前後、公共施設の I が 7 割弱であり、利用意向はシス男性よりやや低い傾向にあった。前報で「問題なく～」と回答したトランスは両施設共に最も多く、「条件や状況～」の回答の合計でもシス男性を上回った。シス女性も、前報では「問題なく～」は 3 割弱であったが、配置図上では 2 割前後に後退し、特に IV、V では 16% 前後に留まった。単に利用意向を尋ねられた場合に比べ、トイレ空間全体の配置上では、他のトイレとの位置関係や出入りの仕方などの検討要素が加わることで、実際の利用状況を勘案した可能性がある。以上より、「男女共用個室トイレ」の利用しやすさから配置計画を検討する際には、シス女性とトランスの意向を重視すべきと考えられる。また、両施設共配置 I～III が比較的受容されやすく、IV と V は受容されにくいことが示唆される。

#### 3-2. 最も良い／悪いと思った配置

次に、回答者自身が各配置内の「男女共用個室トイレ」を利用すると仮定し、「最も良いまたは悪いと思った配置」を尋ねた結果を図 2 に示す。前項でも配置 I～III が受容されやすい傾向はみられたが、その差がより明確となった。「最も良い配置」は両施設共 I が最多で、オフィスではシス男性 40.4%、シス女性 31.6%、トランス 31.7% であった。以降、オフィスでは II、III の順、公共施設では僅かな差で III、II の順であった。オフィスの I と II、公共施設の I と III の差は、特にシス男性の意向の差（それぞれ 15.2 ポイント、11.0 ポイント）の影響がみられた。また、シス女性は、公共施設では III を選択した人が 29.2% で最多であった。一方、「最も悪い配置」は V が他を大きく引き離し 1 位であった。オフィスでは「最も良い」の 1 位であ

る配置Ⅰは、「最も悪い」ではⅣと 1.0 ポイント差の 2 位であり、公共施設ではⅣ、Ⅰの順であった。「男女共用個室トイレ」を利用する前提において、両施設共に配置Ⅰが最も受容されやすく、Ⅴが最も受容されにくいと考えられるが、Ⅰを「最も悪い」としたシス男女も 10～15%程度、トランスでは 2 割程度存在する。対して、ⅡとⅢは「最も悪い」と回答した人がどのジェンダーでも最も少なく、特にシス女性では 1 割を切っており、ⅡとⅢは万人に受容されやすい配置とも考えられる。

表 1. 配置別「男女共用個室トイレ」利用意向／オフィス

配置No.	ジェンダー	利用意向 (%)					n
		問題なく利用	条件や状況によっては利用	できれば利用したくない	絶対利用したくない	わからない	
配置Ⅰ	シス男	36.8	38.8	13.0	2.8	8.6	500
	シス女	20.6	35.4	23.2	12.6	8.2	500
	トランス	32.6	32.9	19.7	8.0	6.8	325
配置Ⅱ	シス男	36.8	38.4	13.6	2.2	9.0	500
	シス女	22.8	36.8	20.8	10.8	8.8	500
	トランス	29.8	37.8	20.6	5.5	6.2	325
配置Ⅲ	シス男	36.2	37.6	14.2	3.0	9.0	500
	シス女	24.0	34.8	21.4	11.4	8.4	500
	トランス	33.5	34.8	18.2	7.1	6.5	325
配置Ⅳ	シス男	31.8	40.0	15.4	4.2	8.6	500
	シス女	16.6	33.0	24.4	17.0	9.0	500
	トランス	30.5	34.2	18.2	10.5	6.8	325
配置Ⅴ	シス男	31.8	40.0	15.4	4.2	8.6	500
	シス女	17.0	32.2	23.0	18.6	9.2	500
	トランス	33.5	32.9	19.4	7.7	6.5	325

表 2. 配置別「男女共用個室トイレ」利用意向／公共施設

配置No.	ジェンダー	利用意向 (%)					n
		問題なく利用	条件や状況によっては利用	できれば利用したくない	絶対利用したくない	わからない	
配置Ⅰ	シス男	35.2	40.4	12.8	2.8	8.8	500
	シス女	19.4	38.0	22.8	12.2	7.6	500
	トランス	28.6	40.6	19.1	7.4	4.3	325
配置Ⅱ	シス男	36.2	40.8	11.0	2.6	9.4	500
	シス女	21.4	40.6	18.8	11.2	8.0	500
	トランス	27.7	42.8	19.4	5.8	4.3	325
配置Ⅲ	シス男	35.6	39.4	12.8	2.6	9.6	500
	シス女	23.2	38.2	19.0	11.8	7.8	500
	トランス	30.8	40.3	17.8	6.5	4.6	325
配置Ⅳ	シス男	32.0	38.4	16.6	4.0	9.0	500
	シス女	15.4	34.2	25.0	16.6	8.8	500
	トランス	28.3	36.6	22.2	7.7	5.2	325
配置Ⅴ	シス男	37.8	32.4	14.6	5.6	9.6	500
	シス女	16.2	31.8	24.0	18.8	9.2	500
	トランス	29.8	35.7	20.9	8.6	4.9	325



図 2. 最も良い／悪いと思った配置

### 3-3. 最も良い／悪い配置と理由

さらに、最も良いまたは悪いと思った理由を自由記述にて尋ねた。配置計画のポイントを探るため、本報ではオフィスを例に、「最も良い」の内、最高評価であった配置Ⅰの理由と「最も悪い」の最低評価であった配置Ⅴの理由を、アフターコーディングにて分類・分析を試みた。

シス男性 (n201) では、“わかりやすさ・シンプルさ”、“使いやすさ・動線のよさ”、“従来型との親和性”が各 1 割程度で計 3 割以上を占め、分かりやすく馴染のある配置を重視する傾向にあった。シス女性 (n158) では、“使い

やすさ・分かりやすさ” 13.9%、“性別毎に分かれている” 12.0%と続き、使い勝手に加え、男女別であることを重視する傾向にあった。また、シス女性特有の傾向として「どんな人でも使いやすいそう」、「トランスジェンダーの人も使いやすいそう」といった“利用者への配慮・公平性”に分類される回答が 8.9%あった。トランス (n103) では、「出入口から最も近い」などの“使いやすさ・分かりやすさ”が 20.4%、「人目が気にならない」、「さりげなく利用できる」などの“心理的安心感”はシス男女の 3.5%、5.1%に対し 10.7%であった。

一方、配置Ⅴを「最も悪い」と選んだ理由は三者とも“男女共用しかない”ことに起因する回答が最多で、シス男性 (n232) 31.9%、トランス (n100) 28.0%に対し、シス女性 (n271) では 61.6%を占めた。中でも“選択肢のなさ”が最多の 22.5%であり、“男女共用自体への抵抗感” 11.8%を上回った。“選択肢のなさ”はトランスでも 12.0%で 1 位であり、手洗い器付きの個室でも、男女共用のみで構成されている点が最も拒否された理由であると推察される。但し、配置Ⅴは「問題なく／条件や状況によっては利用する」の合計が、両施設共、シス男性で 7 割程度、トランスでは 65%程度、シス女性でも半数近くであり、これらの結果をもって全否定されるものではない。

### 4. まとめ

シス男性は、配置によらず「男女共用個室トイレ」の利用意向が高い傾向のため、シス女性とトランスが利用しやすい配置計画が求められる。また、両施設共すべての配置・ジェンダーにて「条件や状況によって～」の割合が最も高い。トイレ空間だけでなく、建物の規模や広さ、周囲の状況や共に利用する人たちとの関係性等により変化する可能性に留意が必要である。さらに、「男女共用個室トイレ」を利用しやすい配置計画のポイントとして、①わかりやすい動線や配置、②同トイレが入りやすい位置にある、③他者からの視線を気にせずに利用できる、④選択肢のひとつとして選べること、が挙げられる。

今後は、手洗い器付きの個室のみで構成されたトイレ計画の評価、受容されやすいサインについて分析を進める。謝辞

本研究を牽引してくださった故・岩本健良先生と過ごした約 8 年間は、かけがえのない大変貴重な時間でした。多大なる感謝と共に、心からご冥福をお祈り申し上げます。

#### 参考文献

- 高橋未樹子、日野晶子、岩本健良他：オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究その 1-6、日本建築学会大会学術講演梗概集、2018-2020 年
- 高橋未樹子、日野晶子、岩本健良：トイレのオールジェンダー利用に関する研究その 1-4、日本建築学会大会学術講演梗概集、2023-2024 年

\*株式会社 LIXIL

\*\*コマニー株式会社 博士 (人間工学デザイン学)

\* LIXIL Corporation

\*\* COMANY INC. Dr. Human Environment Design